

令和2年度 施策評価シート

■第5次粕屋町総合計画の体系

まちづくりの目標 (施策の大綱)	基本目標2 都市と自然が調和し、快適に暮らせる活力あるまち				
	2 安心して快適な生活基盤を備えたまちづくり				
施策名	(2) 安全で快適な生活を支える交通環境の創造				
施策コード	2-2-2	施策構成	2 事務事業	決算額	18,731 (千円)

■目標／指標の達成度

基本計画に掲げる目標／指標			単位
①	実感指標	公共交通を利用しやすいと思う町民の割合	%
②	客観指標	鉄道の利用者数(乗降客数)(都市計画課)	人/日
※ ②'	客観指標	鉄道の利用者数(乗車人員)(都市計画課)	人/日
④			

アウトカム／成果目標の進行管理

	当初値	28年度末	29年度末	30年度末	元年度末	2年度末	目標値	達成度	変更目標値	変更年度
①	53.3	55.8	57.9	59.7	61.7	—	↗	—		
②	20,500	22,600	—	—	—	—	23,000	—		
※ ②'	—	—	12,000	12,500	12,700	10,250	13,500	76%		
③										

※平成29年度より、JRが公表する数値が鉄道の「乗降客数」から「乗車人員」に変更されたため、「乗車人員」を客観指標としています。

■施策における総括

前年度までの課題	将来にわたる安定的な公共交通の確保を図るため、公共交通空白地の発生を防止、現状の交通機関の利用を促進する必要がある。また、町内に6つのJR駅を有する町の恵まれた交通環境をさらに充実させるため、バス・自動車・自転車・歩行者それぞれが利用しやすい環境整備を図るとともに、一体的な公共交通体系を目指す必要がある。
今年度の取り組み(成果、効果)	JR各駅駐輪場では、定期的に放置自転車の回収を行うとともに、柚須駅駐輪場や長者原駅自由通路の照明施設のLED化を図った。長者原駅自由通路や伊賀駅の駅舎では、屋上防水工事を行うことで、健全な施設の維持に努めた。また、長者原駅香椎線ホームでは、国・町・JRで連携し、内方線付き点状ブロックの設置を行い、バリアフリー化の推進を図った。鉄道利用者の利便性向上のため、県協議会を通じ要望活動を行った。
次年度以降に改善すべき課題	移動手段を持たない交通弱者が安心して生活できるように、地域公共交通の維持と利用促進を図る必要がある。令和2年度は新型コロナウイルス感染症の影響で鉄道利用者の減少はあるが、町の恵まれた交通環境をさらに充実させるため、巡回バス・自動車・自転車・歩行者それぞれの相互乗り換えがしやすい駅前環境改善を図る必要がある。

■総合計画の進行管理

(1) 施策実現への取り組み		(2) 施策実現への進捗状況	
	①着実に取り組まれており評価できる。		①計画以上に進んでいる。
○	②取り組まれているが、まだ改善の余地がある。	○	②計画どおり順調に進んでいる。
	③取り組みが不十分であり対策が必要である。		③進んではいるが、スピードが遅い。
	④取り組みがなされていない。		④進捗が見られない、または後退している。